

三菱総合研究所

日本改革

21世紀型

日本経済・社会の構想

ダイヤモンド社

交総合研究所

日本改革

21世紀型
日本経済・社会の構想

ダイヤモンド社

著 者 紹 介

三菱総合研究所

◎三菱総合研究所は、シンクタンクという名の頭脳集団として設立されて以来、すでに25年を超えている。

◎シンクタンクとして位置づけられるためには、四つの基本的条件が必要といわれる。

まず第一は、「インディペンデント・リサーチ・インスティテュート」であること。これはアメリカでは厳格で、ある企業の付属機関として注文の大部分を親企業からもらっているケースは入らない。三菱総合研究所は、三菱という頭文字をつけているが、三菱グループ全体からは、20%弱の受注でしかなく、完全に独立な組織である。

第二は、「フューチャー・オリエンテッド」であること。未来的なテーマをとりあげるわけで、考古学の研究などは枠外となる。

第三は、「ポリシー・オリエンテッド」であること。つまり、政策指向型のテーマが中心となる。たとえば、三菱総合研究所では、年間200億円を超える受託研究費のうち、50%以上は政府、地方公共団体、特殊法人からの発注である。

第四は、「インターディシプリナリー」であること。すなわち、学際的研究姿勢である。あらゆる学問領域の研究者が集まっていないと、「頭脳集団」とはいえないわけである。

◎三菱総合研究所は、これらの条件を満たし、現在1000名を超える研究員を擁する日本有数のシンクタンクである。

日本改革

——21世紀型日本経済・社会の構想——

1996年5月16日 初版発行

著者／三菱総合研究所

©1996 Mitsubishi Research Institute

装丁／工藤 央

印刷／ダイヤモンド・グラフィック社

製本／石毛製本所

発行所／ダイヤモンド社

〒100-60 東京都千代田区霞が関1-4-2

電話／03-3504-6403（編集） 03-3504-6517（販売） 振替口座／00190-6-25976

I S B N 4-478-20040-8

落丁・乱丁本はお取替えいたします

Printed in Japan

はしがき

三菱総合研究所は、一九七〇年に三菱創業一〇〇年の記念事業として設立され、

一 独立性を保ち、中立的立場で提言できる

二 未来指向かつ政策指向型であること

三 できるだけ幅広い分野をカバーし、学際的であること

を社是として、今日まで事業を展開してきました。

さて九〇年代に入り、われわれをとりまく環境と条件は一変しました。東西冷戦体制の終焉、ヒト、モノ、カネ、情報のグローバルな交流と循環、そして先進国を中心にした工業化以後の社会の到来が、その代表的な動きでしょう。

さらに地球温暖化の懸念に象徴されるように、環境問題が人類の立場で論ぜられるように、われわれは文明的転換のただなかにあるといえます。

わが国に目を転じれば、八〇年代に世界経済の牽引車の一つと期待された国が、四年にもわたってゼロに近い成長しか達成できない国になるとは誰が予測したでしょうか。ここにはバブル崩壊という手痛い打撃もありますが、長期的にみると、わが国においても社会全体の構造的転換期を迎えています。

ただいまはこの短期・中長期の転換調整期にあり、そのため日本の経済社会は時代閉塞感の濃い局面

にあります。このときに当たり三菱総合研究所は、総合的であり、同時に現実に立脚した打開の方途を
探るべく、一九九五年九月に、創業二五周年を記念して講演会及びフォーラムを開催しました。本書は
その成果をとりまとめ一冊にしたものです。

第1部は、「日本の経済・社会の新しい飛躍に向けて——革新と打開の方向を探る——」と題する基
調報告です。日本の社会は、来世紀を目前にして大きな転換期を迎えています。新しい飛躍に向けて
その道筋はいまだにみえていません。二一世紀に向けて活力ある経済社会を再構築するために、現在の
経済社会の枠組みの構造的変革の方向と内容を問うたものです。

さらに外部学識者による記念講演として、スタンフォード大学今井賢一教授の「二一世紀の企業像」
（東京会場）、京大学佐和隆光教授の「二一世紀の社会経済システム」（大阪会場）を行い、その講演
記録を収録させていただきました。これらの講演は、不透明なこれからの経済社会と企業の進むべき方
向を明らかにしようとしたものです。

第2部は、四つのフォーラムより成りますが、それは新しい情報化のうねり、企業イノベーションの
追求、地域産業の活性化、そしてエネルギー開発を取り上げたもので、当社研究員の報告、ゲストスピ
ーカーの小講演、パネルディスカッションより構成されています。これらのテーマの選定は当社の四つ
の事業領域から、社会としての重要度を勘案しておのおの一テーマずつを選んだものです。

本文の至るところで指摘されている通り、われわれの眼前には、対外不均衡の是正、産業の構造的変
革と科学技術の振興や新産業の形成、各種規制の見直しや撤廃、急速な高齢化社会に対応する税制や財
政の革新、一極集中型の都市問題の解決、防災・安全の確保など、解決すべき課題が山積しています。
他方、グローバル化や情報ネットワークのインパクトも大きいものがあります。これに対応す

るためには、政治の強いリーダーシップを期待するとともに、われわれシンクタンクとしても、新しい社会フレームの形成に向けてお役に立てるよう、その力を発揮していきたいと考えています。

われわれが第一級のシンクタンクを目指して今日まで歩んで来ることができたことは、ひとえに広く社会各層のご支援の賜です。そして本書の問題提起や分析が少しでも社会のお役に立つことを念ずるとともに、読者の皆様からぜひとも忌憚のないご批判をお願いする次第です。当社として、これを糧にさらなる飛躍をしたいと考えている次第です。

一九九六年三月

代表取締役社長

高橋 貞巳

日本改革——21世紀型日本経済・社会の構想 目次

はしがき.....高橋貞巳

i

第1部 基調報告

基調講演 日本の経済・社会の新しい飛躍に向けて.....

5

はじめに.....5

I 日本経済・社会が直面する課題.....7

1 世界的な政治・経済体制の変革——歴史的転換期としての九〇年代.....7

2 日本経済・社会の転機.....14

II 二世紀初頭へ向けたわが国経済・社会の方向.....23

1 二世紀初頭のわが国の経済・社会像.....23

2 日本経済・社会改革の課題.....32

III 構造的改革へ向けて.....39

1 日本経済・社会変革の突破.....39

2 変革のために必要な施策.....42

3 改革の実行へ向けて.....59

記念講演 二一世紀の企業像……………今井賢一

61

1 三つのキーコンセプトと歴史的転換期としての現代 62

2 西欧の成長と三つのキーワードの今日的意味 69

3 二一世紀の知識産業システム 73

4 新しい市場と組織の組み合わせ 76

5 まとめ 81

記念講演 二一世紀の社会経済システム……………佐和隆光

85

1 十一の予期せぬ激変 85

2 日本経済三つの転換点 90

3 平成不況の教訓 92

4 大失業化時代の雇用対策 99

5 二一世紀のマルサス問題を解け 101

第2部 フォーラム

フォーラム1 進展する情報革命……………

107

〔基調報告〕

はじめに

107

I	インターネットは産業に何をもたらすか	110
1	ビジネス・オン・ザ・ウェブ (Business on the Web)	110
2	EC (電子商取引) / 電子貨幣	112
3	ビジネスの将来、経営の課題 (組織という視点から)	114
II	CALSの動向と将来展開	116
1	CALSとは?	116
2	日本の産業界における現状	117
3	各国のCALSへの取り組み	120
4	CALSの将来展開	123
III	行政の情報化	127
1	行政情報化の経緯と概要	127
2	オープン・ネットワーク時代の行政情報システムのイメージ	129
IV	教育の情報化	135
1	教育における情報化は本当に進んでいるのか?	135
2	情報技術は教育の救世主となるか?	138
3	教育に求められる新たな挑戦	141
	〔パネルディスカッション〕	143

〔基調報告〕

I 背景と目的……………161

- 1 インクリメンタル・イノベーションの限界……………161
- 2 イノベーション創造の論理……………162

II イノベーション創造のメカニズム(1)……………166

- 1 調査研究の方法と基本視点……………166
- 2 イノベーション事業の一〇の特徴……………167
- 3 求心力、遠心力の同時極大化……………174

III イノベーション創造のメカニズム(2)……………178

- 1 シャープの液晶ビュースカム……………178
- 2 液晶ビュースカムにみる求心力、遠心力を高める方策……………184

IV 総括…日本型イノベーション創造システムの将来……………187

- 1 トルネード・マネジメント……………187
- 2 トルネード・マネジメント実現のための両面性のマネジメント……………189
- 3 トルネード・マネジメントのための組織モデル……………190

〔ゲスト・スピーチ〕

I イノベーション事例…テストイモとナビレビュー……………奈須野俊廣 193

- 1 化粧品業界の特徴と経緯……………193
- 2 テステイモ……………194

3	ナビレビューとレインボー計画	195
---	----------------	-----

II	イノベーション事例…ЯV R	——	國分 昭	197
----	----------------	----	------	-----

1	開発の背景	197
---	-------	-----

2	アドバンス・スタディと突撃調査	198
---	-----------------	-----

3	開発チームでのコミュニケーション	199
---	------------------	-----

4	コンセプト深化のための新車展開戦略	199
---	-------------------	-----

5	ネーミングとオーソライズ	200
---	--------------	-----

III	知識創造とトルネード・マネジメント	——	野中郁次郎	201
-----	-------------------	----	-------	-----

1	知識創造のマネジメント	201
---	-------------	-----

2	二面性のマネジメントとトルネード	202
---	------------------	-----

(パネルディスカッション)	——	205
---------------	----	-----

フォーラム 3	地域新産業の創造………	219
---------	-------------	-----

〔基調報告〕

I	地域産業——新たな産業創造の必要性	——	219
---	-------------------	----	-----

1	地域経済、崩壊の危機	219
---	------------	-----

2	新しい産業、地域の戦略産業は何か	222
---	------------------	-----

II	地域産業社会、新しい発展パターン	——	228
----	------------------	----	-----

1	地域産業の現状——産業からみた都道府県類型と特質	228
---	--------------------------	-----

2	トレンドでみた地域別産業発展の明暗	231
---	-------------------	-----

3 地域産業の新たな展開方向 235

III 地域行政の展開と実現化方策のあり方 247

1 地域行政における産業政策のあり方 247

2 実現に向けて 251

〔パネルディスカッション〕 258

フォーラム4 二一世紀のエネルギー展望——水素エネルギーの開発と展望——……………285

〔基調報告〕

はじめに 285

I 将来のエネルギーシステムと技術革新 287

1 二一世紀技術革新論 287

2 水素イオンエネルギー 291

3 L-エナジエティクス 293

4 水素エネルギーの利用に向けて 296

II 水素エネルギーの導入シナリオ 298

1 長期エネルギー需給予測 298

2 水素エネルギーシステム 302

3 世界の水素プロジェクト 304

4 水素技術の展望 307

III 太陽—水素エネルギー (Solar-Hydrogen Energy) ————— 309

1 太陽エネルギーが拓く新時代 309

2 太陽エネルギーによる水素製造 315

3 太陽—水素エネルギーへの期待 319

IV 水素エネルギーの利用 ————— 320

1 水素利用の技術革新 320

2 環境からみた水素エネルギー 320

3 水素エネルギーの輸送と貯蔵 327

4 二世紀型エネルギーとしての水素 330

V エネルギー問題と水素エネルギー利用 ————— 331

〔パネルディスカッション〕 ————— 337

あとがきにかえて 343

執筆者・参加者一覧 353

日本改革

— 21世紀型日本経済・社会の構想

第1部 基調報告

基調講演

日本の経済・社会の新しい飛躍に向けて……………奥山伸弘

記念講演

二一世紀の企業像……………今井賢一

記念講演

二一世紀の社会経済システム……………佐和隆光

